

2018年4月13日

## 外来種アフリカツメガエルの野外拡散防止について

アフリカツメガエル(*Xenopus laevis*)はアフリカ原産のカエルで、頭胴長は5 cm~13 cmです。オタマジャクシからカエルに変態後も雨天時の夜間などにしか陸に上がらず、日常的にはほぼ水中で生活しています。そのため、水中生活に適した扁平な体や水かきのある後肢を持っています。餌は概ね動物質で、野外では昆虫をはじめとする小型の無脊椎動物、小型魚類、他のカエル類、及びそれらの死骸を食べていると考えられます。日本では、ペットあるいは肉食魚の生き餌として、観賞魚店で広く販売されています。また、生命科学研究の実験材料として、専門業者により大学等の研究機関に販売されており、さらに企業による試薬産生にも使われています。

最近、このアフリカツメガエルが日本国内の野外で繁殖し、在来水生生物を捕食することにより、生態系に大きな影響を与える可能性がマスコミやインターネット等で指摘されています。当初、私たちもアフリカツメガエルが日本の冬を越して生存することは難しいと考えておりましたが、実際は、静岡、兵庫、和歌山、鹿児島県の、冬でも比較的温暖な地域では、すでに定着・繁殖していると考えられます。

私たちは、大学等でアフリカツメガエルを用いた研究を行っている生命科学者です。アフリカツメガエルは実験動物として、基礎科学や医学の発展に必要不可欠な存在です。例えば英国のガードン博士はアフリカツメガエルの細胞を使った核移植研究により、iPS細胞を確立した山中博士と同時にノーベル賞を受賞しました。私たちは、この種が野外で定着・繁殖しつつあることを大変憂慮しており、環境保全、そして将来にわたっての実験動物としての有用性を担保する為にも、これ以上の定着拡大はあってはならないと考えています。そのため、研究室から屋外への逃亡については徹底して防止に努めると同時に、一般社会に対して、ペットや生き餌として購入したアフリカツメガエル個体やその幼生を不用意に野外に捨てないよう、あるいはこうした行為につながりかねない不特定多数への養殖アルバイトの勧誘を思いとどまるよう、啓蒙活動を続けていきたいと考えています。

アフリカツメガエルのような繁殖力、環境順応力の強い外来種にかかる問題の常として、たとえこの動物を扱う100人のうち99人が上記のことに留意しても、一人が不注意、あるいは安易な気持ちで放逐してしまい、結果として地域の生物多様性を台無しにしてしまうことは、残念ながらあり得ないことではありません。この件にかかる関係各位のご理解、ご協力をよろしくお願い致します。